別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和5年度報告）

1　被害防止計画の作成数、特徴等

・滋賀県では、19市町中17市町で野生鳥獣による継続的な被害がある市町はすべて、被害防止計画を作成している。
・平成23年度から、市町が共同で被害防止計画を作成しており、5地域で広域被害防止対策協議会が設立した（広域被害防止計画　5地域（16市町）、単独市被害防止計画　1市）。
・その後、平成28年度からは、単独作成していた草津市が西部・南部地域鳥獣被害対策協議会による共同作成に変更された（広域被害防止計画5地域（１７市町））。

2　事業効果の発現状況

・県では被害の実態に応じた的確な対策を実行できる「人づくり、集落づくり」を理念に、市町や団体との連携の下、「集落ぐるみによる被害対策」を強力に推進し、本県の農作物被害の軽減と地域の活性化を目指している。
・国交付金を活用し、平成30年度までは「集落ぐるみ獣害対策推進事業」として、市町や関係団体との連携の下、集落を対象とした研修会や現地指導等の実施などにより集落リーダーを育成し、集落リーダーを中心に集落環境点検を行うなど、集落自らの的確な対策の実践の推進を図り、平成30年度末時点で県内525集落において、集落ぐるみによる獣害対策が実施されている。令和元年度からは「獣害対策集落活性化事業」として、令和4年度末における野生獣による被害発生集落数を300集落まで減少させるという目標を達成した（平成29年度：374集落→令和4年度：255集落）。令和5年度からは「獣害総合対策推進事業」として、より効率化・省力的された防除対策の実証普及や、地域における獣害対策の指導的立場である滋賀県獣害対策アドバイザーの育成等を通じて、人口減少や高齢化などの課題を抱える集落における対策体制の構築や、サル等中型獣への対策の強化を推進する。
・市町の協議会等を会員とした広域の協議会が設立されており、、市町域を越えて移動する野生獣の追い払いや生息状況調査、捕獲等の対策の広域での取り組みに対する支援を行った。
・また、交付金等を活用し、令和4年度末までに、約32kmの侵入防止柵の整備を行い、農地への野生獣の侵入防止に努めている。
・「有害捕獲」では、県独自の森林税を原資にニホンジカの捕獲を推進する事業に取り組んでおり、平成23年度から狩猟期間内の狩猟に対しても助成対象とし、さらに、平成25年度から鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業を活用するなど、捕獲の強化を図っている。特に、生息数や分布域が拡大しているニホンジカ、カワウについては、第2種特定鳥獣管理計画に基づき、適正に個体数管理を進めることとしており、あわせて、県が主導して広域的な捕獲活動を実施した。また、イノシシについてはCSF対策の一環として、県による捕獲活動を実施し、捕獲強化に取り組んだ。

3　被害防止計画の目標達成状況

滋賀県における野生鳥獣による農作物被害金額は、平成22年度には4億6千7百万円をピークに減少傾向にある。計画開始年度（令和2年度）の被害金額は約8千4百万円であったが、被害防除、有害捕獲、生息環境管理の鳥獣被害対策の総合的な取組を進めたことにより、令和4年度の被害金額は約5千7百万円と減少している。
令和4年度を目標とする被害防止計画の達成状況について、事業を実施した5広域協議会、11市町・単独協議会のうち、5広域協議会、6市町・単独協議会では、全獣種の被害金額および被害面積の合計について目標を達成した。しかし、獣種によっては被害が拡大した地域があり、5市町・単独協議会では、全獣種の被害金額および被害面積の合計について、両目標とも未達となった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果
		R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシン	捕獲檻の導入	60基		R3.3	100%	導入した捕獲檻に自動捕獲装置や監視装置等を組み合わせることで、イノシシ、ニホンジカの効率的な捕獲が可能となった。 また、小動物のわな設置を推進し、ヌートリアの被害を軽減することができた。あわせて、防除対策機器の導入により、オオバンやスズメの被害を抑えることができた。 わな免許取得のための事前講習会はR2～R4において計20人が受講され地域ぐるみの捕獲についての意欲向上につながった。
				自動捕獲システムの導入	2台		R3.3	100%	
				自動通報装置の導入	1基		R3.3	100%	
				囲いわなの導入	2基		R3.3	100%	
				くくりわなの導入	11本		R3.3	100%	
				蹴り糸の導入	1基		R3.3	100%	
				電気止めさし器の導入	7台		R3.3	100%	
				生息・行動域・被害状況調査	1群				
				わな免許取得事前講習受講	7名				
				追い払い活動	495h				
			カラス・ドバト・カモ類・カワウ・サギ・スズメ	防除対策機器の導入	12台		R3.3	100%	
				カラス檻の導入	2基		R3.3	100%	

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
				捕獲檻の導入	60基		R3.3	100%		イノシシ	26013	18185	3653	286%	39.46	27.52	5.52	284%	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等の獣類については、目標を達成することができた。しかし、サギ、ムクドリ・ヒヨドリによる被害については、目標達成ができなかったことから、今後も引き続き防除対策機器の導入等を進めるとともに、より効果のある取り組みについて検討する必要がある。	ここ2年ほどイノシシによる被害については大幅に減少する傾向があったが、今後被害が増加するような動きも見られる。ニホンジカについても大幅に被害が減少している。イノシシ・ニホンジカについては防護柵の導入に伴い被害は減少してきているので、今後は防護柵の管理・捕獲檻の管理と捕獲技術の向上と、広域での効率的な防護対策により農作物被害を抑制する事が期待される。 ニホンザルについては長期的にみると被害が漸減してきているが、他獣種と比較すると相対的に被害が目立つようになってきている。今後も継続してニホンザル対策に取り組む必要があるが、物理的な防護だけでなく広域的な対策を含めたソフト面での取り組みが望まれる。しかしながら、現実的に広域のニホンザル対策に取り組めない地域が広がってきており、今後の対策については検討をお願いしたい。 （大津・南部農業農村振興事務所農産普及課　副主幹　木村悟）	野生鳥獣は市域を越えて移動するため、関係市町が広域的に、情報交換を行いつつ、被害防除、有害捕獲および生息地管理を進めている点について評価できる。 自動捕獲装置や監視装置、鳥用防除対策機器等の様々な技術を積極的に導入され、効率的な捕獲や鳥類への対策等を進められている。総合的な対策により主な野生獣（イノシシ、シカ、ニホンザル等）の被害は減少傾向にあるが、鳥類の被害が増加している。 引き続き、捕獲や生息状況調査、講習会等を実施するとともに、既に整備されている侵入防止柵の点検を行い、サル用電気柵の追加を行うなど維持管理を継続していただきたい。被害の拡大している鳥類対策についての対策をより一層強化していただく必要がある。
				自動捕獲システムの導入	2台		R3.3	100%		ニホンジカ	7455	5217	2433	224%	8.54	5.97	2.33	242%			
				自動通報装置の導入	1基		R3.3	100%		ニホンザル	11346	7942	5964	158%	10.36	7.25	5.37	160%			
				囲いわなの導入	2基		R3.3	100%		アライグマ・ハクビシン	2560	1793	826	226%	1.38	0.957	0.61	182%			
				くくりわなの導入	11本		R3.3	100%		ヌートリア	1221	854	0	333%	0.31	0.21	0	310%			
				蹴り糸の導入	1基		R3.3	100%		カラス・ドバト・カモ類	8029	5620	770	301%	7.18	5.017	0.64	302%			
				電気止めさし器の導入	7台		R3.3	100%		カワウ	6358	4450	29024	−1188%	−	−	−	#VALUE!			
				生息・行動域・被害状況調査	1群					サギ	125	87	897	−2032%	0.12	0.08	0.89	−1925%			
				わな免許取得事前講習受講	7名					オオバン	92	64	72	71%	1.53	1.07	0	333%			
				追い払い活動	495h					スズメ	236	165	0	332%	0.3	0.21	0	333%			
			カラス・ドバト・カモ類・カワウ・サギ・スズメ	防除対策機器の導入	12台		R3.3	100%		ムクドリ・ヒヨドリ	72	50	6700	−30127%	0.1	0.07	0.35	−833%			
				カラス檻の導入	2基		R3.3	100%		合計	63507	44427	50339	69%	69.28	48.354	15.71	256%			

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
滋賀県西部・南部地域鳥獣被害対策協議会【推進事業】	大津市、高島市、草津市、栗東市、野洲市	R3	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシン	捕獲檻の導入	34基	協議会	R4.3	100%													
				自動捕獲システムの導入	1台		R4.3	100%													
				囲いわなの導入	1基		R4.3	100%													
				跳り糸の導入	1基		R4.3	100%													
				生息・行動域・被害状況調査	1群																
				わな免許取得事前講習受講	8名																
				追い払い活動	400h																
			カラス・ドバト・カモ類・カワウ・サギ・スズメ	防除対策機器の導入	13台		R4.3	100%													
				カラス檻の導入	1基		R4.3	100%													
		R4	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシン	捕獲檻の導入	18基		R5.3	100%													
				自動捕獲システムの導入	1台		R5.3	100%													
				跳り糸の導入	1基		R5.3	100%													
				囲いわなの導入	2基		R5.3	100%													
				くくりわなの導入	20本		R5.3	100%													
				電気止めさし器の導入	1台		R5.3	100%													
				生息・行動域・被害状況調査	1群																
				わな免許取得事前講習受講	5名																
				追い払い活動	400h																
			カラス・ドバト・カモ類・カワウ・サギ・スズメ	防除対策機器の導入	6台		R5.3	100%													
				カラス檻の導入	2基		R5.3	100%													
大津市有害鳥獣被害対策協議会【緊急捕獲】	大津市	R2	ニホンジカ	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ930頭				令和2年度から令和4年度に4,182頭の有害捕獲により、被害金額、被害面積とも減少し被害軽減が図れた。	ニホンジカ	137	95	41	229%	0.42	0.29	0.26	123%	ニホンジカにおける捕獲数の増加により、農作物被害は減少傾向にあるが、ここ数年は農作物被害に止まらず生活環境被害にまで及んでいる。そのため、これまで被害の少なかった地域まで被害が出てきており、引き続き、被害地域と協力しながら対策を進めていく必要がある。	ニホンジカについては3年間で捕獲数が大きく伸び、被害の軽減に寄与しているといえる。今後もニホンジカ生息域の拡大等を視野に入れ、広域的かつ継続的な捕獲および防除を行う必要がある。一方で、アライグマ・ハクビシン等の外来獣による被害が、当時の計画策定時より増加していると考えられているため、動向に注意し、引き続き捕獲や防除等の対応を行う必要がある。（西部・南部森林整備事務所次長　川戸　健司）	防護柵等の被害防除対策と加害個体の捕獲による個体群管理によって被害の低減が図られていると認められる。引き続き被害の低減を図るため、防護柵等については、維持管理（経年劣化等で野生動物の侵入経路になっていないか、必要に応じて補修を行うなど）の徹底や被害地を正確に把握し、被害地付近での加害個体の捕獲の両輪による対策に努められたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ1,803頭					イノシシ	2,271	1,567	55	315%	8.43	5.82	1.58	262%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ1,449頭					ニホンザル	47	33	3	314%	0.12	0.09	0.02	333%			
										アライグマ・ハクビシン	4	3	8	−400%	0.01	0.007	0.01	0%			
										カラス	4	3	0	400%	0.01	0.007	0	333%			
										合計	2463	1701	107	309%	8.99	6.214	1.87	256%			
栗東市（栗東市有害鳥獣被害対策協議会）【緊急捕獲】	栗東市	R2	ニホンジカ、イノシシ	鳥獣の有害捕獲	シカ45頭 イノシシ8頭				各集落に設置した箱ワナによる捕獲と狩猟期間中の猟友会委託による捕獲により、シカ130頭、イノシシ16頭を捕獲し、農作物等への被害減少に努めた。	イノシシ	810	567	211	247%	0.54	0.37	0.79	−147%	栗東市では、侵入防止柵の維持管理および各集落に設置した箱ワナによる捕獲と狩猟期間中の猟友会委託による有害鳥獣駆除を行っているが、集落付近では箱ワナが設置できず、柵での対応しかできない地域もある。今後も、侵入防止柵の維持管理や箱ワナの設置数を増やすことで被害減少や捕獲数の増加に取り組む。	3か年でニホンジカ・イノシシともに捕獲数がほぼ一定を推移している一方で、被害面積が大きく目標を上回っていることから、積極的な捕獲のみではなく、侵入防止柵の設置等の対応を行い、防除の面も併せて対応していくことが求められる。また、外来獣についても継続的に捕獲対応や防除を行う必要がある。（西部・南部森林整備事務所次長　川戸　健司）	被害金額、被害面積ともに増加しているが、市内全域で増加しているのかそれとも一部集落で増加しているのか把握されたい。被害増加している集落について、まずは防護柵等が適切に維持管理（経年劣化等で野生動物の侵入経路になっていないか、必要に応じて補修を行うなど）されているのか確認されたい。その上で捕獲が可能な箇所であれば、加害個体の捕獲を強化されたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	シカ47頭 イノシシ4頭					ニホンジカ	360	252	1037	−627%	0.5	0.35	0.69	−127%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	シカ38頭 イノシシ4頭					アライグマ	40	28	65	−208%	0.26	0.18	0.02	300%			
										ハクビシン	40	28	35	42%	0.26	0.18	0.1	200%			
										合計	1250	875	1348	−26%	1.56	1.08	1.6	−8%			

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
甲賀地域獣害対策協議会【推進事業】	甲賀市	R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシン	狩猟免許取得支援	3名	協議会	R3.3	100%	導入した箱わなを用いて、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシンを捕獲することにより、地域の被害低減に努めた。 捕獲実績 令和2年度　ニホンジカ2,275頭、イノシシ387頭、ニホンザル14頭、アライグマ440頭、ハクビシン63頭 令和3年度　ニホンジカ1,618頭、イノシシ305頭、ニホンザル22頭、アライグマ361頭、ハクビシン62頭 令和4年度　ニホンジカ1,829頭、イノシシ767頭、ニホンザル35頭、アライグマ661頭、ハクビシン86頭 発信器装着により、市内の群れの位置情報を住民に提供し、追い払い等の被害対策に活用した。	ニホンジカ	2771	1940	3481	−85%	4.7	3.2	6.39	−113%	有害捕獲の実施と侵入防止柵の設置に伴い、全体的な被害低減は達成できたと考えられる。 ニホンジカによる被害は、一定の下限に至ったとみられ、これ以上の被害防止には、公道や住宅地等、防御が困難な場所への対応が必要と考えられる。 一方、イノシシによる被害は、CSFからの回復がみられ、出没および被害が増加した。 被害防止を向上させるため、緩衝帯を整備し、柵の補修に対して支援することで、継続的な被害対策を推進する。	事業実施により一定の被害低減効果は認められた。 事業で設置した器具等の稼働率はすべて100%で、良好に活用できている。 樹種別にみるとニホンジカの被害をさらに抑える方策を検討する必要がある。イノシシについては被害金額を効果的に抑えることはできたが、被害面積はかえって増加しており、広域での被害封じ込めが必要と思われる。（甲賀農業農村振興事務所　農業推進係主幹　竹若　与志一）	関係機関が連携し、総合的な対策を進めたことで被害軽減につながっている点が評価できる。また、ニホンザル対策に重要な群れ位置の把握についても、発信機の装着等により生息状況をはあくしての対策が実施されている。 イノシシについては、近年の減少傾向から一転し、増加（個体数の回復）の様子が見られるため、侵入防止柵の維持管理を含む対策体制について、改めて徹底いただきたい。 ニホンジカ被害について被害の割合が大きいため、防除と捕獲の両輪での対策を進めていただきたい。
				箱わな導入	6基		R3.3	100%		イノシシ	16800	11760	6782	199%	16.7	11.6	18.07	−27%			
				小型箱わな導入	35基		R3.3	100%		ニホンザル	207	145	559	−568%	0.7	0.49	0.57	62%			
				発信器	2基		R3.3	100%		アライグマ・ハクビシン	13	9	0	325%	0.01	0.007	0	333%			
				発信器装着土A・信A	2群2頭		R3.3	100%		合計	19791	13854	10822	151%	22.11	15.297	25.03	−43%			
		R3		狩猟免許取得支援	2名		R4.3	100%													
				箱わな導入	4基		R4.3	100%													
				小型箱わな導入	45基		R4.3	100%													
				発信器	3基		R4.3	100%													
				発信器装着甲A・甲C	2群2頭		R4.3	100%													
				発信器装着土山E群	1群1頭		R4.3	100%													
		R4		狩猟免許取得支援	7名		R5,3	100%													
				箱わな導入	2基		R5,3	100%													
				小型箱わな導入	7基		R5,3	100%													
				発信器	2基		R5,3	100%													
				発信器装着甲A・土E	2群2頭		R5,3	100%													
				研修会開催	1回33名		R5,3	100%													
甲賀市（甲賀地域獣害対策協議会）【整備事業】	甲賀市	R2	シカ・イノシシ	ワイヤーメッシュ柵の設置	7,751m	甲賀市	R3.3	100%	柵を設置した地域では、その後獣害被害は発生していない。	ニホンジカ	2,771	1,940	3,481	−85%	4.7	3.2	6.4	−113%	獣害防護柵は獣害被害防止に非常に有効であり、利用状況、稼働状況とも良好である。	獣害防護柵は、獣害被害防止に良好に機能しており、その後の点検等も大きな問題点はない。（甲賀農業農村振興事務所　農業推進係　主幹　竹若　与志一）	広域協議会によるソフト対策に加えて、侵入防止柵を整備し、修繕や緩衝帯整備とあわせて取り組んだことにより、被害軽減につながった。 侵入防止柵未整備箇所については引き続き整備を進めていただくとともに、過去に整備した侵入防止柵の点検を行い、必要な維持管理を徹底も強化いただくとともに、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設なども検討いただきたい。
		R3		ワイヤーメッシュ柵の設置	3,050m		R4.2	100%		イノシシ	16,800	11,760	6,782	199%	16.7	11.6	18.1	−27%			
		R4		ワイヤーメッシュ柵の設置	780m		R5.2	100%		ニホンザル	207	145	559	−568%	0.7	0.49	0.57	62%			
				ワイヤーメッシュ柵の設置	3,459m		R5.1	100%		アライグマ・ハクビシン	13	9	0	325%	0.01	0.007	0	333%			
										合計	19,791	13,854	10,822	151%	22.11	15.297	25.07	−43%			
甲賀市（甲賀地域獣害対策協議会）【緊急捕獲】	甲賀市	R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 2,275頭 イノシシ 387頭 ニホンザル 14頭				令和2年度のおいては、ニホンジカ2,275頭、イノシシ387頭、ニホンザル14頭、アライグマ440頭、ハクビシン63頭の捕獲により、地域の被害低減に努めた。 令和3年度においては、ニホンジカ1,618頭、イノシシ305頭、ニホンザル22頭、アライグマ361頭、ハクビシン62頭の捕獲により、地域の被害低減に努めた。 令和4年度においては、ニホンジカ1,829頭、イノシシ767頭、ニホンザル35頭、アライグマ661頭、ハクビシン86頭の捕獲により、地域の被害低減に努めた。	ニホンジカ	2771	1940	3481	−85%	4.7	3.2	6.39	−113%	有害捕獲の実施と侵入防止柵の設置に伴い、全体的に被害低減は達成できたと考えられる。 ニホンジカによる被害は、一定の下限に至ったとみられ、これ以上の被害防止には、公道や住宅地等、防御が困難な場所への対応が必要と考えられる。 一方、イノシシによる被害は、CSFからの回復が見られ、出没および被害が増加した。 被害防止を向上させるため、緩衝帯を整備し、柵の修繕に対して補助することで、継続的な防除活動を推進する。	ニホンジカについて、毎年2000頭前後を捕獲しているが、被害減少が鈍化している傾向にあるため、防護柵の確認などの防除対策強化を検討する必要がある。 イノシシについて、基準年より減少したものの被害金額は大きいことから、引き続き捕獲と防除を共に推進する必要があると考えられる。 （滋賀県甲賀森林整備事務所　次長　柳井　洋）	ニホンジカについては、被害金額、被害面積ともに増加している。市内全域で増加しているのかそれとも一部集落で増加しているのか把握されたい。そのうえで被害増加要因（防護柵等が適切に維持管理されていない、侵入防護柵未整備地区である等）を正確に把握し、対策に努められたい。イノシシについては、豚熱（CSF）の発生件数が減少していることから将来的に再び生息数が増加する可能性がある。そのため、引き続きに被害防除対策と加害個体の捕獲の両輪での対策を努められたい。
				鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 1,618頭 イノシシ 305頭 ニホンザル 22頭					イノシシ	16800	11760	6782	199%	16.7	11.6	18.07	−27%			
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 1,829頭 イノシシ 767頭 ニホンザル 35頭					ニホンザル	207	145	559	−568%	0.7	0.49	0.57	62%			
		R4								アライグマ・ハクビシン	13	9	0	325%	0.01	0.007	0	333%			
										合計	19791	13854	10822	151%	22.11	15.297	25.03	−43%			

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
東近江地域鳥獣被害防止対策協議会【推進事業】	近江八幡市 東近江市 日野町 竜王町	R2	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、カラス、オオバン	大型獣用箱わなの導入	11基	協議会	R2	100%	大型獣用捕獲わな及び外来獣用捕獲わなを100%稼働させることによりイノシシやニホンジカまたアライグマやハクビシンを効率的に捕獲するとともに、毎年狩猟免許取得者を増やすことにより捕獲体制が強化しつつある。さらにはニホンザル対策やカラス対策の実施により集落住民の連帯意識も毎年向上している。	イノシシ	17083	11956	6822	200%	18.96	13.26	29.53	−185%	各市町協議会による研修会の開催、追い払い活動、生息状況調査、有害捕獲、侵入防止柵設置等の対策により被害額は低減しているものの、特にイノシシによる被害面積は拡大傾向にある。今後も引き続き2市2町の対策協議会との連携を強化しつつ、総合的な対策を進めるとともに、更に対策を強化するため、農業者等への狩猟免許取得を促す。研修会等で獣害対策のリーダーを育成し、集落ぐるみの総合的な獣害対策を推進する。	東近江獣害協議会や各市町協議会の研修会等を通じて指導した。特に、この期間は、コロナ禍と言うことで、住民を集めることが難しく、市町担当者研修に切り替えて、現地の実践的な研修を実施した。柵の設置や捕獲檻の使用法等を農家に指導できるよう担当者の獣害対策技術も向上できたと考えている。 （東近江農業農村振興事務所 農産普及課　主幹　松井　賢一）	野生鳥獣は市域を越えて移動するため、関係市町が広域的に、情報交換を行いつつ、被害防除、有害捕獲および生息地管理を進めている点が評価できる。また、獣害対策を指導する立場である市町担当者等に対する研修を実施したことにより、獣害対策の推進体制が強化されたと考えられる。 広域での研修会の実施や、捕獲、生息状況調査、各市町協議会での侵入防止柵整備等総合的に対策されており、全体の被害は軽減している。ICT機器の導入が進んでおり、今後もより効率の良い捕獲・防除を促進していただきたい。
				外来獣用箱わなの導入	95基		R2	100%		ニホンジカ	1533	1072	95	312%	1.69	1.17	0.12	105%			
				狩猟免許の取得	5人		R2	100%		ニホンザル	250	174	304	−71%	0.27	0.18	0.27	0%			
				鳥獣害対策機器【衛】導入	4基		R2	100%		ハクビシン、アライグマ、ヌートリア	若干	若干	若干	#VALUE!	若干	若干	若干	#VALUE!			
				外来獣処分・埋設等捕獲委託費	51h		R2	100%		カワウ	若干	若干	若干	#VALUE!	若干	若干	若干	#VALUE!			
				獣害対策研修会	1回		R2	100%		オオバン	若干	若干	若干	#VALUE!	若干	若干	若干	#VALUE!			
				獣害防止対策マニュアル購入	340部		R2	100%		スズメ	51	35	若干	#VALUE!	0.05	0.035	若干	#VALUE!			
				緩衝帯整備	2地区		R2	100%		合計	18917	13237	7221	206%	20.97	13.665	29.92	−123%			
		R3		大型獣用箱わなの導入	12基		R3	100%													
				外来獣用箱わなの導入	63基		R3	100%													
				狩猟免許の取得	8人		R3	100%													
				鳥獣害対策機器【衛】導入	8基		R3	100%													
				緩衝帯整備	3地区		R3	100%													
				ICTセンサー	11台		R3	100%													
				ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ調査	1回		R3	100%													
				外来獣処分・埋設等捕獲委託費	36h		R3	100%													
				狩猟読本	1部		R3	100%													
				野生獣解体講習会	1回		R3	100%													
				獣害対策研修会	1回		R3	100%													
				機械装着外部	2群		R3	100%													
		R4		大型獣用箱わなの導入	1基		R4	100%													
				外来獣用箱わなの導入	16基		R4	100%													
				音によるカラス防除材	4基		R4	100%													
				狩猟免許の取得	7人		R4	100%													
				ほかパトシステム導入	親機2基　子機25		R4	100%													
				ニホンザル発信器装着	1回		R4	100%													
				ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ調査	1回		R4	100%													
				獣害対策研修会	2回		R4	100%													
				外来獣処分・埋設等捕獲委託費	74h		R4	100%													

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
近江八幡市獣害対策協議会【整備事業】	近江八幡市	R3	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵の設置	100m	各集落	R3.10	100%	侵入防止柵の設置以降、被害がなくなった。	イノシシ	1396	977	1642	-59%	1.47	1.02	1.61	-31%	侵入防止柵の設置により、被害が低減された。 侵入防止柵の未整備地区においては、イノシシが農地へ侵入し被害が増加している。 侵入防止柵整備済み地区においても防護柵周辺の刈り払いや定期的な点検の実施を促進し、適切な管理により防護柵の効果を最大限引き出す必要がある。	イノシシは、豚熱によってかなり減少したが、近々増加しており、柵設置集落でも管理が不十分なところは、被害が発生しており、適切な管理ができるよう指導してゆく。 （東近江農業農村振興事務所 主幹　松井　賢一）	侵入防止柵の設置およびソフト事業による被害防除の組み合わせによる対策により、対象ほ場の被害は軽減したものの、未設置地域等では依然として被害が発生している。 侵入防止柵の整備を引き続き進めるとともに、過去に設置した侵入防止柵の維持管理を徹底し、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設についても検討いただきたい。
										ニホンジカ	若干	若干	若干		若干	若干	若干				
										ニホンザル	若干	若干	若干		若干	若干	若干				
										外来獣（ハクビシン、アライグマ、ヌー	若干	若干	若干		若干	若干	若干				
										カワウ	若干	若干	若干		市内2漁協組合	市内2漁協組合	市内2漁協組合				
										カラス	若干	若干	若干		若干	若干	若干				
										合計	1396	977	1642	-59%	1.47	1.02	1.61	-31%			
近江八幡市（近江八幡市獣害対策協議会）【緊急捕獲】	近江八幡市	R2	イノシシ、ニホンジカ	鳥獣の有害捕獲	イノシシ 130頭 ニホンジカ　11頭				令和2年度から令和4年度にイノシシ356頭、ニホンジカ24頭の有害捕獲を実施し、個体数の減につながった。被害を未然に防止し、被害を抑えることができた。	イノシシ	1,396	977	1642	-59%	1.47	1.02	1.61	-31%	イノシシ、ニホンジカの捕獲については、地元猟友会に業務を委託し実施することで、被害地域の被害防止に貢献できた。 また、ニホンジカについては個体数及び捕獲数が少なく、目立った被害が確認されていないが、今後も個体数増加防止のための捕獲に努める。 カワウ・カラス等鳥類についても、地元猟友会に業務を委託し、銃器捕獲により、被害の軽減に努めた。 一方、イノシシの捕獲数は、H29～R1と比べ、減少傾向にあるものの、イノシシの被害増加の要因については、生息域の拡大及び、侵入防止柵未整備	イノシシによる被害が軽減していないことから、防護柵の設置と併せて、引き続き積極的・効果的な捕獲が必要である。 ニホンジカについては、現状、被害は限定的であるが、生息頭数増加の抑制に向けて、捕獲を継続することが必要である。 （中部森林整備事務所　次長　廣部　信孝）	被害金額、被害面積ともに増加しているが、市内全域で増加しているのかそれとも一部集落で増加しているのか把握されたい。そのうえで被害増加地における被害増加要因（防護柵等が適切に維持管理されていない、侵入防護柵未整備地区である等）を正確に把握されたい。 被害が増加している地区の内、侵入防護柵未整備区域については、理解の得られる地権者から個別に防護柵等の設置を行い、加えて加害個体の効果的な捕獲に努められたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	イノシシ95頭 ニホンジカ　6頭					ニホンジカ	若干	若干	若干	－	若干	若干	若干	－			
		R4		鳥獣の有害捕獲	イノシシ131頭 ニホンジカ7頭					ニホンザル	若干	若干	若干	－	若干	若干	若干	－			
										ハクビシン アライグマ ヌートリア	若干	若干	若干	－	若干	若干	若干	－			
										カワウ	若干	若干	若干	－	2漁協組合	2漁協組合	2漁協組合	－			
										カラス	若干	若干	若干	－	若干	若干	若干	－			
										合計	1396	977	1642	-59%	1.47	1.02	1.61	-31%			
東近江市野生動物保護管理対策協議会【整備事業】	東近江市	R2	イノシシ	侵入防止柵の設置	600m	各集落	R3.2	100%	侵入防止施設は、令和2年度に侵入防止柵を1400メートル、電気柵を350m、令和3年度に侵入防止柵を1880m、電気柵を500m、令和4年度に侵入防止柵を3020m設置した。設置した地域においてはおおむね被害の低減が見られたが、特定の地域（令和4年度設置、鋳物師町地先）では供用開始までの未設置期間に被害が発生したと推測される。	イノシシ	2254	1577	3452	-177%	2.4	1.68	3.26	-119%	令和2年度から令和4年度にかけて、同様の対策を継続する中で、令和3年度は被害が大きく減少し、目標を達成することができた。一方で、令和4年度は再び被害が増加し、目標の達成に至らなかった。特にイノシシの被害が年により差が大きく、被害の傾向として、特定の地区で連続して被害が発生しており、侵入防止柵未設置の農地にイノシシが侵入していることが原因と考えられる。また、ニホンザルについては、追払いや個体数調整などを継続して実施しているが、継続的に被害が出ている。	イノシシは、豚熱の流行により、一時的に生息数が減少したが、再び増加に転じている。住民は、イノシシに対する意識が低下していることから、再度イノシシ対策への意識向上が必要である。 （東近江農業農村振興事務所 主幹　松井　賢一）	侵入防止柵の設置およびソフト事業による被害防除の組み合わせによる対策により、対象ほ場の被害は軽減したものの、未設置地域等では依然として被害が発生している。 侵入防止柵の整備を引き続き進めるとともに、過去に設置した侵入防止柵の維持管理を徹底し、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設についても検討いただきたい。
		R2	イノシシ	侵入防止柵の設置	450m		R3.2	100%		ニホンジカ	104	72	0	325%	0.11	0.07	0	275%			
		R2	ニホンジカ・イノシシ	侵入防止柵の設置	350m		R3.2	100%		ニホンザル	147	102	187	-89%	0.17	0.11	0.18	-17%			
		R2	ニホンザル	電気柵の設置	350m		R3.2	100%		ンアライグマヌ	若干	若干	-	#VALUE!	若干	若干	-	#VALUE!			
		R3	イノシシ	侵入防止柵の設置	350m		R4.2	100%		カワウ	若干	若干	-	#VALUE!	若干	若干	-	#VALUE!			
		R3	イノシシ	侵入防止柵の設置	550m		R4.2	100%		オオバン	若干	若干	-	#VALUE!	若干	若干	-	#VALUE!			
		R3	イノシシ	侵入防止柵の設置	980m		R4.2	100%		カラス	若干	若干	-	#VALUE!	若干	若干	-	#VALUE!			
		R3	ニホンザル	電気柵の設置	500m		R4.2	100%		合計	2505	1751	3639	-150%	2.68	1.86	3.44	-93%			
		R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	1320m		R5.2	100%													
		R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	700m		R5.2	100%													
東近江市（東近江市野生動物保護管理対策協議会）【緊急捕獲】	東近江市	R2	ニホンジカ・イノシシ	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ　1,084頭 イノシシ　192頭				令和2年度は1,084頭のニホンジカ、192頭のイノシシ、令和3年度は978頭のニホンジカ、131頭のイノシシ、令和4年度は1,022頭のニホンジカ、115頭のイノシシを有害捕獲し、地域において被害の低減が図ったが、令和4年度の農業被害は、平成30年度と比較し-150%となった。特定の地域からイノシシの被害報告が多数あり、侵入防止柵未設置個所からの侵入が考えられる。	イノシシ	2254	1577	3452	-177%	2.4	1.68	3.26	-119%	有害捕獲による捕獲数はニホンジカは毎年度1,000頭前後捕獲されているが、イノシシの捕獲数は令和2年度の192頭から令和4年度の115頭で大きく減少しているが豚熱の蔓延による個体数の減少が原因と考えられる。被害額については令和3年度は大きく減少し目標値を達成しているが、令和4年度では被害が再び増加した。特定の地区から被害が多発したことから、個体数に関わらず、侵入防止柵未設置の箇所からイノシシが侵入し被害が増加したと考えられるため、引き続き侵入防止柵の設置をする必要がある。ニホンザルについては個体数調整や追払いの実施を行っているが被害は毎年度出ているため、引き続き追払いを実施する	イノシシによる被害が軽減していないことから、防護柵の設置と併せて、引き続き積極的・効果的な捕獲が必要である。 ニホンジカは積極的な有害捕獲により、被害の低減につながっている。しかし、ニホンジカについては、生息頭数の減少にまでは至っていないと見込まれることから、適切な防除対策と併せて、引き続き、積極的な捕獲の推進が必要である。 （中部森林整備事務所　次長　廣部　信孝）	被害が増加している地区の内、侵入防護柵未整備区域については、理解の得られる地権者所有地から個別に防護柵等の設置を行い、加えて加害個体の効果的な捕獲に努められたい。被害減少には、まず防護柵等の被害防除対策を講じた後、加害個体の効果的な捕獲が重要である。防護柵等は適切に維持管理を行うことで防除効果を持続するため、再度設置された防護柵等のうち侵入経路となっている箇所がないか確認されたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ　978頭 イノシシ　131頭					ニホンジカ	104	72	0	－	0.11	0.07	0	－			
		R4		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ　1,022頭 イノシシ　115頭					ニホンザル	147	102	187	-89%	0.17	0.11	0.18	-17%			
										ハクビシン アライグマ ヌートリア	若干	若干	-	－	若干	若干	-	－			
										カワウ	若干	若干	-	－	若干	若干	-	－			
										オオバン	若干	若干	-	－	若干	若干	-	－			
										カラス	若干	若干	-	－	若干	若干	-	－			
										合計	2505	1751	3639	-150%	2.68	1.86	3.44	-93%			

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
日野町有害鳥獣被害対策協議会【整備事業】	日野町	R2	ニホンジカ イノシシ	ワイヤーメッシュ柵の整備	4,677m	各集落	R3.3	100%	ワイヤーメッシュ柵を合計4,677m整備。整備した地域ではニホンジカ、イノシシによる農作物被害が軽減した。	イノシシ	12246	8572	1481	293%	13.8	9.66	1.46	298%	ワイヤーメッシュ柵を整備した地域ではニホンザル・イノシシによる農作物被害が軽減した。柵の設置だけで終わらせずに、地域住民の理解や連携を深めながら、周辺環境の整備や、集落点検、威嚇・追い払いなど複数の被害防止策を組み合わせて持続的な対策を行っていく必要がある。	イノシシは、豚熱により、一時生息数が減少したが回復傾向にあり、住民がイノシシへの関心が薄れており、再度、意識の向上が必要である。 （東近江農業農村振興事務所 主幹　松井　賢一）	侵入防止柵の設置およびソフト事業により、対象ほ場の被害は軽減した。 設置後の維持管理や点検など、柵の効果を維持させるための取組について、集落への指導を徹底いただきたい。 併せて、過去に設置した侵入防止柵の維持管理を進め、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設についても検討いただきたい。
		R3	ニホンジカ イノシシ	ワイヤーメッシュ柵の整備	180m		R4.3	100%		ニホンジカ	1429	1000	95	311%	1.58	1.1	0.12	304%			
										ニホンザル	103	72	117	−45%	0.1	0.07	0.09	33%			
										ハクビシン アライグマ	若干	若干	－		若干	若干	－				
										カワウ	若干	若干	－		若干	若干	－				
										カラス	51	35	－		0.05	0.035	－				
										合計	13829	9679	1693	292%	15.53	10.865	1.67	297%			
日野町（日野町有害鳥獣被害対策協議会）【緊急捕獲】	日野町	R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ260頭 イノシシ67頭 ニホンザル69頭				R2年度～R4年度にかけて合計でニホンジカ1002頭、イノシシ236頭、ニホンザル126頭を捕獲。被害防止計画に記載の捕獲数には届かなかったものの、捕獲や防護柵の整備等の総合的な対策により被害の軽減が見られた。	イノシシ	12,246	8,572	1,481	293%	13.8	9.66	1.46	298%	日野町では町を中心として森林組合や農協、猟友会など関係機関が参画した協議会を設置。研修会の開催、追い払い活動、生息状況調査、有害捕獲、侵入防止柵の設置等総合的な対策を実施している。ニホンザルの一部の群れでは群れの分裂が見られ、被害が広がっており、目標達成に至らなかった。加害傾向の強い群れにおいては個体数調整の実施を検討するとともに、集落ぐるみによる獣害対策の研修や環境点検等、獣害に強い地域づくりを目指す。	有害鳥獣の捕獲の推進は図られており、効果的な防除対策と併せて、被害の軽減が図られている。 しかしながら、ニホンジカについては、生息頭数の減少にまでは至っていないと見込まれることから、適切な防除対策と併せて、引き続き、積極的な捕獲の推進が必要である。 （中部森林整備事務所　次長　廣部　信孝）	防護柵等の被害防除対策と加害個体の捕獲による個体群管理によって被害の低減が図られていると認められる。引き続き被害の低減を図るため、防護柵等については、維持管理（経年劣化等で野生動物の侵入経路になっていないか、必要に応じて補修を行うなど）の徹底や被害地を正確に把握し、被害地付近での加害個体の捕獲の両輪による対策に努められたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ265頭 イノシシ80頭 ニホンザル27頭					ニホンジカ	1,429	1,000	95	311%	1.58	1.1	0.12	304%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ477頭 イノシシ89頭 ニホンザル30頭					ニホンザル	103	72	117	−45%	0.1	0.07	0.09	33%			
										ハクビシン アライグマ	若干	若干	－	－	若干	若干	－	－			
										カワウ	若干	若干	－	－	若干	若干	－	－			
										カラス	51	35	－	－	0.05	0.04	－	－			
										合計	13,829	9,679	1693	292%	15.48	10.87	1.67	300%			
湖東地域広域鳥獣害防止対策検討会議【推進事業】	彦根市、多賀町、甲良町、愛荘町	令和2年	ニホンジカ イノシシ ニホンザル ハクビシン アライグマ	免許取得支援	1名	協議会	随時	0%	発信機取り付け群に対する生息域調査を活用し、ニホンザルの個体数調整を実施（1群）する他、行動域内に大型檻を移設するなど、ニホンザルの捕獲に寄与している。地域全体でニホンザルの被害に対する関心が高く、令和4年度の研修には60名を超える参加があった。 購入した捕獲檻においては、ハクビシンやアライグマといった小型外来獣の捕獲が中心となっており、捕獲数という意味では一定の効果が上がっているものの、地域全体の個体数を減少させるには至っていない印象。	ニホンザル	4240	2864	1611	191%	10.97	7.44	8.17	79%	湖東地域広域鳥獣害防止対策検討会議は1市3町の獣害対策協議会を中心として構成されており、行政区画に縛られない獣害対策を目指して取り組んでいる。研修会の開催、追い払い活動、生息状況調査等総合的な対策により基準年である平成30年と比較しての被害金額は半減している。特にイノシシにおける減少幅が大きく、豚熱の影響も大きいと推察される。一方で被害面積は微増しており、特にニホンジカにおいては3．5倍と顕著に増加している。しかしながら、面積の増加分ほど被害金額が増えていない。つまり、ニホンジカにおける単位面積当たりの被害額は減少したと言える。このことから、狭い面積の圃場で甚大な被害をもたらすのではなく、柵がない、または管理が不十分な場所で広く被害を及ぼしていると考えられる。 ニホンザルについては被害金額・面積ともに減少しているが、これはあくまで農作物被害として計上した分に限っており、家庭菜園や生活環境被害などの数字として現れない被害も含めると、むしろ被害は増加傾向にあると考えられる。出没する範囲も広がっていることから被害対策のさらなる普及啓発が重要課題である。	イノシシ被害は減少傾向で、ニホンジカの被害はそれほど大きくはない。ただし、ニホンザルは家庭菜園や家の周りなどで、数字に現れない生活環境被害が多いと市町から聞いており、サル被害は増加傾向だと考えられる。 このため、まずは地元研修や先進地視察研修等を開催することで、地域住民の獣害に対する理解促進に努める必要がある。 ニホンザルについては、有害捕獲や個体数調整の取り組みも始まっている。 そこで、意欲ある集落に対しては、これらの有害捕獲や個体数調整と合わせて、総合的な対策を進めていくことで、効果の高い取り組みとなるよう支援する必要があると思われる。 （湖東農業農村振興事務所農産普及課　敷野幾久）	野生鳥獣は市域を超えて移動するため、関係市町が広域的に、情報交換を行いつつ、被害防除、有害捕獲および生息地管理を進めている点が評価できる。ニホンザル被害については、金額は減少しているものの被害金額に計上されない被害が増加傾向にあることから、テレメトリー調査等による生息状況を把握した上での対策が実施されているため、広域的な対策を継続いただきたい。 侵入防止柵はおおむね整備されているが、経年劣化や管理不足により被害が生じうるため、点検を行い、必要な維持管理の徹底を強化いただきたい。 今後も、集落ぐるみによる獣害対策を推進し、継続した防除対策と捕獲対策を実施していく必要がある。
				研修会の開催	1回			0%		ニホンジカ	1165	769.2	1645	−121%	3.27	2.18	11.74	−777%			
				生息域調査	1111h			0%		イノシシ	2618	1736	829	203%	3.44	2.2	3.27	14%			
				捕獲檻購入	11台			100%		合計	8023	5369.2	4085	148%	17.68	11.82	23.18	−94%			
				発信機取り付け	4群		R3.1～3	100%													
		令和3年		免許取得支援	1名		随時	0%													
				研修会の開催	1回			0%													
				生息域調査	1661h			0%													
				捕獲檻購入	9台			100%													
				発信機取り付け	2群		R4.1	100%													
		令和4年		研修会の開催	2回		随時	0%													
				生息域調査	2444h			0%													
				捕獲檻購入	11台			100%													
				発信機取り付け	2群		R5.1～2	100%													

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
彦根市 （彦根市獣害防止対策協議会） 【緊急捕獲】	彦根市	R2	ニホンジカ	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ63頭				令和2年度から令和4年度の3年間で計171頭のニホンジカの有害捕獲を実施した。年度によって捕獲頭数に変動はあるものの、3年間の平均捕獲頭数は57頭で、捕獲計画頭数である70頭を下回っている。 一方で、令和4年度の被害額は387千円、被害面積は0.43haであり、集落および農地付近の加害個体の捕獲や侵入防止柵の延伸により令和元年の実績と比較して大幅に減少させることができた。	ニホンジカ	727	473	387	134%	0.68	0.44	0.43	104%	彦根市では森林組合、農協、猟友会など関係機関が参画した協議会を設立しており、研修会の開催、追い払い活動、生息状況調査、有害捕獲、侵入防止柵の設置など総合的な対策を実施している。 今回、有害捕獲での銃器またはわなによる捕獲は捕獲頭数目標には至らなかったが、これまでの捕獲活動や防除活動により被害防止計画の目標を達成することができた。 しかし、猟友会会員の高齢化や集落の獣害対策の担い手の減少が顕著であり、捕獲体制や防除施設の日常管理が維持できるような支援策の強化が急務である。	ニホンジカの有害捕獲により、被害の低減につながっているものの生息頭数の減少にまでは至っていないと見込まれることから、適切な防除対策と併せて、引き続き、積極的な捕獲の推進が必要である。（中部森林整備事務所　次長　廣部　信孝）	防護柵等の被害防除対策と加害個体の捕獲による個体群管理によって被害の低減が図られていると認められる。引き続き被害の低減を図るため、防護柵等については、維持管理（経年劣化等で野生動物の侵入経路になっていないか、必要に応じて補修を行うなど）の徹底や被害地を正確に把握し、被害地付近での加害個体の捕獲の両輪による対策に努められたい。
					ニホンジカ60頭					ニホンザル	1927	1253	1	286%	2.11	1.37	0.001	285%			
		R4			ニホンジカ48頭					イノシシ	1736	1128	341	229%	1.86	1.21	0.37	229%			
										アライグマ	－	－	－	－	－	－	－	－			
										カラス	－	－	8	－	－	－	0.01	－			
										合計	4390	2854	737	238%	4.65	3.02	0.811	236%			
多賀町 【緊急捕獲】	多賀町	R2	ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ407頭 イノシシ0頭 ニホンザル42頭				左記の事業量のとおり捕獲を行っている。イノシシについては豚熱の影響から個体数が激減しており、捕獲数も減少した。それに伴い、被害額も減少傾向であったが、令和4年の実績には表れていない。有害鳥獣駆除業務が一時停止していたこともあり、令和3年度の捕獲数が極めて少なくなった。それに呼応するように、特にニホンジカにおいて被害が増加している。	ニホンザル	1596	1110	1071	108%	7.92	5.5	3.17	196%	湖東広域の検討会議において、研修会の実施や生息域の調査を行っている。また、多賀町独自でも、獣害防止柵の維持管理や新設に関する補助、追い払い用花火の配布などを行っており、被害面積の減少に努めている。しかしながら、有害鳥獣駆除業務が停止していたことから、ニホンジカにおいて今まで被害がなかった地域でも被害をもたらしており、被害金額や面積が増加傾向となっている。 有害捕獲に関しては滋賀県猟友会彦根支部に委託先を変更したことから、捕獲従事者が増加した。このことから令和5年度以降の年間捕獲頭数は増加	令和3年度の有害捕獲の一時停止の影響もあり、ニホンジカの被害が増加し、また生息頭数の減少にまでは至っていないと見込まれることから、適切な防除対策と併せて、引き続き、積極的な捕獲の推進が必要である。 （中部森林整備事務所　次長　廣部　信孝）	ニホンジカによる被害増加には、令和3年度に有害捕獲事業を一時停止になった影響があると推測される。被害低減には適切な防除対策と併せて捕獲を行うことが重要であり、捕獲だけでは被害が減少しない可能性がある。そのため新たに確認された被害地では防護柵等の被害防除対策を講じた後、加害個体の効果的な捕獲に努められたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ44頭 イノシシ5頭 ニホンザル9頭					ニホンジカ	157	100	721	−989%	2.24	1.5	5.85	−488%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ375頭 イノシシ12頭 ニホンザル30頭					イノシシ	271	180	329	−64%	0.92	0.6	0.36	175%			
														—				—			
														—				—			
										合計	2024	1390	2121	−15%	11.08	7.6	9.38	49%			
湖北地域鳥獣被害防止対策協議会 【推進事業】	長浜市、米原市	R2	ニホンジカ イノシシ ニホンザル ハクビシン アライグマ ヌートリア カラス カワウ アオサギ	小型獣用箱わなの導入	8基	協議会	R2.8	100	大型サルオリでは次年度に装着稼働する動物位置情報システム用GPS首輪装着にかかる捕獲として5頭を捕獲した。 実施隊OJTでは、新規実施隊員に対し、長年にわたり実施隊員として従事している者が、総時間345時間をかけ指導を行い、わな猟のノウハウを指導し、新規実施隊員のスキルアップにつながった狩猟免許予備講習会受講者への助成については、捕獲体制の強化を図るため、R2、22名、R3、17名、R4、16名、計55名に狩猟免許取得にかかる受講費に対し助成を行い、担い手確保を推進した。	イノシシ	9363	6553	2293	252%	9.34	6.53	2.41	247%	今後も、湖北地域鳥獣被害防止対策協議会が中心となって構成団体等との連携を図り、野生獣追い払い対策の強化や、より効果的な侵入防止柵の設置を進め、野生獣を寄せ付けない集落ぐるみの取り組みを推進する。	ニホンザルやカワウでは目標より被害金額、面積とも大きかったが、ほとんどの獣種では大幅に目標達成できており、捕獲や狩猟免許への助成など各事業の成果が出ているものと考えられる。 引き続き、サル檻の運用による適切な個体数管理とともに、ニホンザルに効果の高い電気柵の設置を進めるなど効果的な侵入防止対策の実践により、野生獣による被害防止を進める必要がある。（湖北農業農村振興事務所農産普及課　副主幹　芦田　安代）	狩猟免許取得支援やOJTによる実施隊員指導など、地域で獣害対策を実施する人材育成による体制づくりを実施している点が評価できる。 多くの獣種で被害が減少している一方、ニホンザルの被害は金額、面積ともに増加傾向にある。GPSを活用した群れ位置の把握等を踏まえた効果的な防除および捕獲に努めていただきたい。 また、防除対策として、未設置個所への侵入防止柵の整備とともに、過去に整備した侵入防止柵の点検を行い、補修やサル用電気柵の追加等必要な維持管理の徹底にも強化いただきたい。
				実施隊OJTの実施				100		ニホンザル	5837	4085	6872	−59%	2.9	2.03	5.09	−252%			
				サルオリ導入			R2.8	100		ニホンジカ	2864	2004	728	248%	2.87	2	0.83	234%			
				狩猟免許予備講習補助				100		ハクビシン アライグマ ヌートリア	628	438	303	171%	0.25	0.17	0.07	225%			
		R3		大型サルオリ導入			R3.8	100		カラス	5253	3676	1078	265%	4.95	3.46	0.28	313%			
				ICT捕獲機材導入			R3.8	100		アオサギ	6829	4780	68	330%	6.48	4.53	0.05	330%			
				狩猟免許予備講習補助			R3.8	100		カワウ	43106	30174	62561	−150%	0	0	0	#DIV/0!			
		R4		動物位置情報システム			R4.8	100		合計	73880	51710	73903	0%	26.79	18.72	8.73	224%			
				狩猟免許予備講習補助				100													

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
長浜市 【緊急捕獲】	長浜市	R2	ニホンジカ	鳥獣の有害捕獲	3700頭				ニホンジカは令和2年度3700頭、令和3年度4761頭、令和4年度5438頭捕獲した。これは平成29年度から令和元年度までの捕獲頭数を大きく上回る成果である。	イノシシ	2534	1773	2225	41%	2.86	2	2.36	58%	防護柵整備事業や捕獲事業によりイノシシ、ニホンジカによる被害は軽減した。一方でニホンザルによる被害が拡大しているため、大きな被害が見られるカワウとともに、引き続き駆除を推進していく。	・ニホンジカについては、緊急捕獲事業により被害軽減が進んでいる。今後とも、広域対策の視点からも継続的な捕獲圧の維持に努めてもらいたい。 ・カワウ被害が増加している。生息数の低減のためには地域での対応だけ限界があり、県実施のカワウ営巣地対策事業等との広域連携を進めながら多方面からの対策や被害状況の把握方法など課題解決に向けた継続的な取り組みに期待したい。 （湖北森林整備事務所 副主幹 寺尾尚純）	ニホンジカについては防護柵等の被害防除対策と加害個体の捕獲による個体群管理によって被害の低減が図られていると認められる。 イノシシ、ニホンザルについては被害減少には、まず防護柵等の被害防除対策を講じた後、加害個体の効果的な捕獲が重要である。防護柵等は適切に維持管理を行うことで防除効果を持続するため、再度設置された防護柵等のうち侵入経路となっている箇所がないか確認されたい。 カワウについては引き続き関係機関と連携しながら対策に努められたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	4761頭					ニホンザル	2998	2098	4543	−172%	1.9	1.33	4.57	−468%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	5438頭					ニホンジカ	2049	1434	227	296%	1.9	1.33	0.21	296%			
										ﾊｸﾋﾞｼﾝ ｱﾗｲｸﾞﾏ ﾇｰﾄﾘｱ	81	56	173	−368%	0.1	0.07	0.04	200%			
										カラス	465	325	570	−75%	0.9	0.63	0.07	307%			
										ｶﾜｳ	36127	25289	52432	−150%							
										合計	44254	30975	60170	−120%	7.66	5.36	7.25	18%			
米原市鳥獣被害防止対策協議会 【整備事業】	米原市	R2	シカ・イノシシ	ワイヤーメッシュ柵の整備	1,232m	協議会	R3.2	100%	侵入防止柵は、R2において計2,767km導入し、導入した地域においては被害の低減が見られた。メッシュ山側にはメッシュ沿いに箱わなを設置。侵入防止柵により獣を誘導することで、有害捕獲頭数の増加につながった。	イノシシ	2990	2093	68	326%	3.09	2.16	0.05	327%	今後も、湖北地域鳥獣被害防止対策協議会が中心となって構成団体等との連携を図り、野生獣追い払い対策の強化や、より効果的な侵入防止柵の設置を進め、野生獣を寄せ付けない集落ぐるみの取り組みを推進する。	ワイヤーメッシュ柵の設置が進み、防除効果の高いニホンジカやイノシシの被害を大幅に減少することができている。ワイヤーメッシュ柵では防除効果が低い獣種についても、箱わなの設置による捕獲頭数の増加により、被害が軽減できている。一方、本評価では目標達成できているニホンジカやニホンザルは、環境被害や被害集落の移り替わりもあるため、より効果的な侵入防止策の設置等の対策が必要である。 （湖北農業農村振興事務所農産普及課　副主幹　芦田　安代）	侵入防止柵の設置による捕獲率の向上による防除・捕獲両輪の効果が発揮され、ニホンジカやイノシシの被害が大幅に減少している。 柵の設置後の維持管理や点検体制について集落に指導を徹底いただくとともに、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設についても検討いただきたい。
					1,535m		R3.2	100%		ニホンザル	5604	3922	2328	195%	1.43	1	0.44	230%			
										ニホンジカ	2650	1855	501	270%	2.98	2.08	0.62	262%			
										ハクビシン アライグマ ヌートリア	459	321	130.2	238%	0.04	0.02	0.02	100%			
										ツキノワグマ	-	0	0	#VALUE!	0	0	0	#DIV/0!			
										カラス	2356	1649	508	261%	0.63	0.44	0.17	242%			
										アオサギ	-	0	0	#VALUE!	0	0	0	#DIV/0!			
										合計	14059	9840	3535.2	249%	8.17	5.7	1.3	278%			
米原市 （米原市鳥獣被害防止対策協議会） 【緊急捕獲】	米原市	R2	ニホンジカ	有害鳥獣の捕獲	ニホンジカ 1,472頭				令和2年度から令和4年度に3,657頭の有害捕獲を実施。 令和2年度に比べ約半数の捕獲ではあるが、個体数が減少していると思われる。 今後も捕獲を進め被害を減少させる必要がある。	イノシシ	2,990	2,093	683	257%	3.09	2.16	88.2	−9152%	捕獲や侵入防止柵の整備を推進した結果、一定の効果がみられたが、侵入防止柵未設置個所等では被害が発生している。 また、ニホンザルについては、各自治会での目撃情報や被害も多く、捕獲を強化する必要がある。	・ワイヤーメッシュ柵とニホンジカの捕獲で一定の被害防止は達成できた。 ・被害金額と被害面積の増減幅に乖離があり、特に被害面積の考え方の整理が必要と思われる。 (湖北森林整備事務所 管理係 副主幹 寺尾尚純)	被害金額は減少している一方、被害面積は大幅に増加している。被害面積の増加が市内全体で増えているのかそれとも一部集落で増加しているのか把握されたい。侵入防護柵未整備区域については、理解の得られる地権者所有地から個別に防護柵等の設置を行い、加えて加害個体の効果的な捕獲に努められたい。
		R3		有害鳥獣の捕獲	ニホンジカ 1,402頭					ニホンザル	5,604	3,922	4,473	67%	1.43	1	75.4	−17202%			
		R4		有害鳥獣の捕獲	ニホンジカ 783頭					ニホンジカ	2,650	1,855	284	298%	2.98	2.08	52.8	−5536%			
										ハクビシン アライグマ ヌートリア	459	321	924	−337%	0.04	0.02	9.8	−48800%			
										カラス	2,356	1,649	1,070	182%	0.63	0.44	7.1	−3405%			
										合計	14059	9840	7434	157%	8.17	5.7	233.3	−9115%			
たかしま獣害対策協議会 【整備事業】	高島市	令和2年	ﾆﾎﾝｼﾞｶ ｲﾉｼｼ ﾆﾎﾝｻﾞﾙ	獣害防止柵の設置	1,389m	各集落	R3.3	100%	令和2年度から令和4年度の過去3ケ年で、獣害防止柵を1,943m設置し、導入した集落においては、ニホンジカ、イノシシおよびニホンザルによる被害の低減が図れた。	イノシシ	21704	15192	3135	285%	27.84	19.48	2.88	299%	令和2年度から令和4年度までの間に獣害防止柵を1,943m整備し、導入した集落においては、ニホンジカやイノシシ、ニホンザルによる被害の低減が図られた。しかし、一方ではアライグマおよびサギによる被害が増加傾向にある。 被害金額は、全体的に減少傾向にあるが、特にカワウによる被害額が大きく目標値を達成することが出来なかった。 令和5年度において滋賀県によるカワウ駆除事業が行われたことから、今後も滋賀県と協力し、継続してカワウ被害低減を図ることとする。	当該計画期間中、事業活用による侵入防止柵の設置をはじめ、市内各地における様々な活動により、主要三獣種（イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ）による被害は金額、面積とも減少し、各種取り組みの成果が認められる。 しかしながら、ニホンザルによる被害については特定の地域（集落）に局在化する傾向にあることから、引き続き、各地の実情に応じた適切な施設整備や捕獲（個体数調整）を進める必要がある。 あわせて、これらの効果の維持、向上に向けた地域住民による集落環境点検の実施や、点検結果に基づく誘因除去や追い払い活動等、自らが継続して取り組める活動について地域住民とともに関係機関が一体となって強力に推進する必要がある。 また、サギ、カワウ、アライグマ等の鳥獣種による被害が増加しており、引き続き、営巣地対策や捕獲による被害軽減対策を進める必要がある。 （滋賀県高島農業農村振興事務所農産普及課　副主幹　三木幸	侵入防止柵の設置とソフト事業の組み合わせによる防除の効果が発揮され、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルによる被害は減少傾向にある。 柵の設置後の維持管理や点検について集落に指導を照っていただくとともに、老朽化した柵の更新やより効用の高い場所への移設についても検討いただきたい。
		令和4年		獣害防止柵の設置	554m		R5.3	100%		ニホンジカ	6958	4870	1355	268%	7.62	5.33	1.38	272%			
										ニホンザル	11299	7909	5961	157%	10.24	7.16	5.35	159%			
										ハクビシン	2226	1558	196	304%	0.75	0.52	0.08	291%			
										カラス	5320	3724	450	305%	4.02	2.81	0.13	321%			
										カワウ	6358	4450	29024	−1188%	−	−	−	#VALUE!			
										サギ	125	87	897	−2032%	0.12	0.08	0.89	−1925%			
										オオバン	92	64	0	329%	1.53	1.07	0	333%			
										合計	54,082	37,854	41,018	81%	52.12	36.45	10.71	264%			

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										対象鳥獣	被害金額(千円、%)				被害面積(ha、%)						
											基準年の実績	目標値	実績値	達成率	基準年の実績	目標値	実績値	達成率			
高島市 （たかしま獣害対策協議会） 【緊急捕獲】	高島市	R2	ニホンジカ イノシシ	鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 2,279頭 イノシシ 403頭				R2～R4において、ニホンジカおよびイノシシ等の捕獲活動を進め、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等について、被害軽減が図られた。	イノシシ	21,704	15,192	3,135	285%	27.84	19.48	2.88	299%	侵入防止柵の整備とともに有害鳥獣捕獲を継続的に進めたことにより、ニホンジカ、イノシシおよびニホンザル等について、被害防止計画における目標を達成することができた。しかし、一方ではアライグマ、ハクビシン等の被害が増加している。このことから、今後も引き続き捕獲活動をすすめるとともに、総合的な獣害対策が求められている。	ニホンジカについては計画期間中、安定的に捕獲が進み被害額の軽減に結びついていると推測される。 またイノシシ、ニホンザルについても前計画期間より被害額の軽減が見られるようになった。 一方でニホンジカにおいては糞塊密度の上昇傾向がみられること、ニホンザルにおいては一部住宅街において顕著な被害が見られるなど、予断を許さない傾向が続くとみられる。 この三年間でカワウ、サギの被害が著しく増加している。鳥類の被害対策を進める必要がある。 （滋賀県西部・南部森林整備事務所高島支所　主幹　田中啓史）	イノシシ、ニホンジカ等については、防護柵等の被害防除対策と加害個体の捕獲による個体群管理によって被害の低減が図られていると認められる。引き続き被害の低減を図るため、防護柵等については、維持管理（経年劣化等で野生動物の侵入経路になっていないか、必要に応じて補修を行うなど）の徹底や被害地を正確に把握し、被害地付近での加害個体の捕獲の両輪による対策に努められたい。 カワウについては引き続き関係機関と連携しながら対策に努められたい。 サギについては、被害が発生する場所で捕獲だけでは周辺から再び飛来し、被害が減らないことがある。まずは被害地に寄せ付けない対策（ネット等の防除対策）を検討されたい。
		R3		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 2,183頭 イノシシ 92					ニホンジカ	6,958	4,870	1,355	268%	7.62	5.33	1.38	272%			
		R4		鳥獣の有害捕獲	ニホンジカ 2,239頭 イノシシ 234頭					ニホンザル	11,299	7,909	5,961	157%	10.24	7.16	5.35	159%			
										アライグマ	246	172	522	−373%	0.09	0.06	0.4	−1033%			
										ハクビシン	2,226	1,558	196	304%	0.75	0.52	0.08	291%			
										カラス	5,320	3,724	450	305%	4.02	2.81	0.13	321%			
										カワウ	6,358	4,450	29,024	−1188%	−	−	−	#VALUE!			
										サギ	125	87	897	−2032%	0.12	0.08	0.89	−1925%			
										オオバン	92	64	0	329%	1.53	1.07	0	333%			
										合計	54,328	38,026	41,540	78%	52.21	36.51	11.11	262%			
滋賀県 （カワウ広域管理捕獲実施事業）	近江八幡市 長浜市	R4	カワウ	深刻な漁業被害や植生被害を引き起こしているカワウに対し、カワウ大規模営巣地において捕獲を行う。	事業費8,118,000円 （うち国庫8,118,000円）				繁殖期に集中して成鳥を中心に4,323羽のカワウを捕獲することで個体数の増加を抑制できたと考えられる。										・捕獲目標数（5,200羽）を下回る捕獲結果となった。 ・捕獲目標数は県内全域の生息数を対象に設定しているが、近年、生息区域の分散化等により、適切な捕獲目標数の設定および竹生島以外での捕獲の実施が困難となっている。 ・計画では伊崎半島（近江八幡市）でも実施予定であったが、生息羽数が32羽と極めて少なかったことから実施しなかった。		
滋賀県 （集落ぐるみ獣害対策を支援する人材の育成活用事業）	県域	R4	鳥獣全般	集落自らが的確な被害防除対策を実践できるよう、集落の技術指導者を育成するため、被害防止技術の習得に向けた研修会等を開催する。 ①集落リーダー育成 集落で獣害対策を進めるリーダー的人材育成のための研修会を開催する。 ②獣害対策アドバイザーの育成 対策遅延集落等に対し被害防止対策の助言等を行う人材の育成を図る。	事業費212,145円 （うち国庫212,145円）				被害集落を対象とした地域別研修会（5回開催）や集落リーダー育成のための集中講座（6回開催）を開催し、集落環境点検の方法や被害防止対策について学んだ内容を集落での被害防止対策の取組に活かしていただいた。 また、地域獣害対策協議会を対象とした先進地視察（2回）や県職員の研修参加（1回）を通じて得た知識を基に獣害対策の普及活動を行った。										・集落において獣害対策を率先して実践する方々に、被害防止に関する知識の普及ができた。 ・今後も、研修会を通じて、自ら的確な被害防除対策を実践できる集落を拡大する。		

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
注2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

被害防止計画の目標を達成した地域が多いが、獣種個別にみると、被害が減少しないあるいは増加している獣種もある。県の被害獣種の半数以上を占めていたイノシシ被害は大幅に減少傾向にあり、全体の被害金額についても減少傾向にある。一方、減少傾向の続いていたニホンジカ被害が一部地域で増加しており、これまでに整備した侵入防止柵の維持管理や、老朽化した柵の更新、より効果の高い場所への移設等を検討していく必要がある。また、ニホンザル被害については、被害金額は減少傾向にあるが、農作物被害に計上されない被害や生活環境被害についての被害報告が増加しており、効果的な対策を実施していく体制づくりを進める必要がある。併せて、引き続き、被害防除、有害捕獲、生息環境管理といった総合的な対策を地域主体で確実に実施していく必要がある。

別記様式第８号関係様式

鳥獣被害防止施設等設置後の被害状況等について

事業実施主体名	市町村名	地区名	竣工年月日	侵入防止柵の種類・設置距離	事業費(円)	国費(円)	被害金額(円) 被害面積(㎡) 被害量(kg)	被害が生じた場合の要因と事業実施主体等が講じた対応策	事業実施主体等が講じた設置にかかる指導内容	事業実施主体等が行っている維持管理方法	事業実施主体等における維持管理状況	都道府県における点検・指導状況	その他
甲賀市	甲賀市	神	R3.3.17	ワイヤーメッシュ柵 7,751m	13,563,000	13,563,000	被害なし		隙間なく設置すること等	見回り、除草、補修等	良好	研修会において、柵の維持・補修管理の必要性、具体的な補修管理方法について指導した。	
	甲賀市	神	R4.2.4	ワイヤーメッシュ柵 3,050m	9,328,000	9,213,000	被害なし						
	甲賀市	神	R5.2.3	ワイヤーメッシュ柵 3,459m	11,120,996	10,275,000	被害なし						
	甲賀市	鳥居野	R5.1.5	ワイヤーメッシュ柵 780m	2,497,004	2,497,004	被害なし						
近江八幡市獣害対策協議会	近江八幡市	安土町下豊浦	R3.10.18	ワイヤーメッシュ柵 100m	138,600	138,600	被害なし		資材納入時の資材メーカーによる正しい設置方法の説明・指導	見回り、周辺除草、維持補修管理	設置集落に管理委託	柵の施行前や設置後の環境点検、管理方法について必要に応じて指導した。	
東近江市野生動物保護管理対策協議会	**東近江市**	下麻生町	R3.2.28	ワイヤーメッシュ柵 600m	694,100	694,100	被害なし		資材納入時の資材メーカーによる正しい設置方法の説明・指導	柵の点検及び緩衝帯の管理	定期的に実施	柵の施行前や設置後の環境点検、管理方法について必要に応じて指導した。	
	東近江市	鋳物師町	R3.2.28	ワイヤーメッシュ柵 450m	536,250	536,250	被害なし						
	東近江市	永源寺相谷町	R3.2.28	ワイヤーメッシュ柵 350m	489,240	489,240	被害なし						
	東近江市	永源寺相谷町	R3.2.28	電気柵 350m	143,150	143,150	被害なし						
	東近江市	下麻生町	R4.2.28	ワイヤーメッシュ柵 350m	481,250	481,250	被害なし						
	東近江市	鋳物師町	R4.2.28	ワイヤーメッシュ柵 550m	756,250	756,250	被害なし						
	東近江市	鈴町	R4.2.28	ワイヤーメッシュ柵 980m	1,347,500	1,347,500	被害なし						
	東近江市	永源寺高野町	R4.2.28	電気柵 500m	244,200	244,200	被害なし						
	東近江市	鋳物師町	R5.2.28	ワイヤーメッシュ柵 1320m	1,722,072	1,722,072	32,600 310 163	行動範囲の変化、未設置個所の整備					
	東近江市	市子川原町	R5.2.28	ワイヤーメッシュ柵 700m	913,220	913,220	被害なし						
	東近江市	鈴町	R5.2.28	ワイヤーメッシュ柵 1000m	1,304,600	1,304,600	被害なし						
日野町有害鳥獣被害対策協議会	日野町	鳥居平	R2.12.27	ワイヤーメッシュ柵 4,407m	5,028,357	4,917,000	被害なし		設置にあたっては、実施地区の役員らと共に現地を回り、柵の管理の視点や農業の効率の観点から設置ルートを決定した。また、滋賀県東近江農産普及課にも依頼をし、協力しながらワイヤーメッシュ柵の裏表や下部の補強等の指導を実施した。	事業実施地区に維持管理を委託。	異常なし	柵の施行前や設置後の環境点検、管理方法について必要に応じて指導した。	
	日野町	鎌掛	R3.1.14	ワイヤーメッシュ柵 270m	308,068	301,000	被害なし						
	日野町	小御門	R4.3.28	ワイヤーメッシュ柵 180m	509,410	321,000	被害なし						
米原市鳥獣保護 防止対策協議会	米原市	伊吹	R3.2.26	ワイヤーメッシュ柵 1,232m	1,914,031	1,528,000	被害なし		耐用年数遵守 単管50ｃｍ程度入れる メッシュ柵を針金で固定等	自治会点検	獣害柵年４回点検	被害額が大きい集落等を対象に湖北地域獣害対策研修会を年１回開催	
	米原市	朝日	R3.2.26	ワイヤーメッシュ柵 1,535m	2,378,957	1,903,000	被害なし						
	米原市	伊吹	44620	ワイヤーメッシュ柵 388m	1,161,600	645,000	なし						
たかしま獣害対策協議会	高島市	下市場地区	R3.3.19	ワイヤーメッシュ柵 98m	149,645	149,645	被害なし		－	財産管理委託契約に基づく地元生産組合による管理	柵周辺の除草	集落の要請に応じて現地を確認し、必要に応じて管理方法の指導を行うこととしている。	
	高島市	桑原地区	R3.3.19	ワイヤーメッシュ柵 551m	973,124	973,124	被害なし						
	高島市	富坂地区	R3.3.19	ワイヤーメッシュ柵 257m	370,681	370,681	被害なし						
	高島市	黒谷地区	R3.3.19	ワイヤーメッシュ柵 483m	731,500	731,500	被害なし						
	高島市	栃生	R4.3.13	ワイヤーメッシュ柵 +電気柵4段 554m	1,240,360	1,240,360	被害なし						